

8月定例記者会見の概要

- 1 日 時 令和4年8月2日（火）10時30分～11時30分
- 2 場 所 本庁舎3階 第一会議室
- 3 出席者 <報道機関>
 - ① 朝日新聞社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
 - ② 福島民報社 南相馬支社（南相馬記者クラブ会員）
 - ③ 福島民友新聞社 相双支社（南相馬記者クラブ会員）

計 3 社

< 市側 >

- ・市長・総務部長
(テレビ会議)
- ・新田副市長・常木副市長・小高区役所長・鹿島区役所長
- ・復興企画部長・復興企画部政策担当理事
- ・市民生活部長・健康福祉部長
- ・健康福祉部新型コロナ対策担当理事・こども未来部長
- ・経済部長・経済部農林水産担当理事・経済部企業支援担当理事
- ・建設部長・総合病院事務部長・教育委員会事務局長

計 18 人

- (司会進行) 秘書課長
- (会議記録) 秘書課広報広聴係

【市政報告】

皆さん、お集まりいただき誠にありがとうございます。

はじめに、前回7月4日の記者会見から最近までの出来事について報告いたします。

まず、相馬野馬追についてです。

3年ぶりの通常開催となった今年は、元服を迎えたばかりの若君が総大将を務めるという特別な年でした。人馬一体となった勇壮華麗な戦国絵巻に加え、一千有余年の歴史がこの先も受け継がれていく瞬間を、市民や観光客の皆様に御覧いただくことができましたと思います。

開催実績を申しあげますと、出場騎馬数が337頭、観光客の入込数は、103,400人となりました。

3日間にわたる各行事を無事に終えることができましたのは、市民の皆様を始め、騎馬会、相馬野馬追執行委員会、相馬野馬追保存会の皆様のご尽力のおかげです。この場をお借りして、感謝を申し上げます。

なお、コロナに関して、現状、出場者が感染したとの情報は入っておりません。また、野馬追に従事した513人の職員に検査を実施しましたが、陽性者はおりませんでした。

次に、新型コロナウイルス感染症についてです。

お手元の資料「福島県における人口10万人当たりの1週間新規陽性者数の推移」をご覧ください。

市内の感染状況は増加傾向であるものの、県内他市に比べれば比較的安定して参りました。また、野馬追開催後の顕著な感染者数の増加はなかったものと判断いたしておりますが、資料の通り、油断できない水準で推移しています。

県内でも、第7波はピークアウトの兆しを見せておらず、BA.2.75へのさらなる置き換わりで流行が長期化するとの見方もあり強い危機感を持って対応しております。

市では、PCR検査センターの開設時間等を拡大いたしました。8月14日までは、平日に加え、土日祝日も開設し、平日は利用時間を2時間半延長して午前9時から午後6時30分まで、土日祝日は午前9時から午後4時までご利用いただけます。

また、ワクチン接種を着実に進めてまいります。

高齢者等への4回目接種については、予定通り8月13日に終了します。国・県に強く要望していた医療従事者等への接種については7月25日から実施して順調に進捗しています。

さらに、医師会のご協力をいただき、急遽、5歳から11歳の小児の集団接種を実施します。ぜひご利用いただければと思います。

市民の皆様にお願ひです。これまでどおり、基本的な感染対策の徹底を粘り強くお願ひします。加えて、発熱や喉の痛み、倦怠感などコロナの感染が疑われる場合には、なお、強い対策をお願ひします。出勤しない、通学・通園しない、会食に行かない、旅行や帰省を延期することを徹底いただき、その上で、速やかに医療機関の受診をしていただきたいと思います。

市民の皆様のご理解、ご協力をお願ひします。

続いて今後の主な話題について触れたいと思います。

はじめに、高速道路に係る要望書の提出についてです。

明日8月3日に、常磐自動車道等の整備促進に関する要望書を、福島県知事、関係する県内の2町長と共に、国土交通省、財務省、復興庁、東日本高速道路株式会社等に提出してまいります。私としては、常磐自動車道の早期4車線化、(仮称)小高スマートインター早期完成に向けた支援、インターアクセス道路への財政支援等について、要望を行う予定です。

次に、市議会臨時会についてです。

8月8日に、第6回市議会臨時会を開催いたします。

今回の臨時会においては、原油価格・物価高騰等への対応や、令和4年3月16日発生福島県沖地震の被災への対応などに係る費用の補正予算の提出を予定しています。

詳細はのちほど総務部長より説明いたします。

次に、ロボテス見学会についてです。

8月20日に、ロボテス見学会2022 inSUMMERを福島ロボットテストフィールドで開催いたします。

8月12日まで、インターネットやFAXで事前申し込みを受け付けており、定員は500人程度を予定しています。

会場では、企業及び大学等18団体による、ロボットやドローンの展示や操作体験、施設の見学ツアー等を実施する予定です。日ごろ、詳しく見学できない福島ロボットテストフィールドをご覧いただく絶好のチャンスです。ぜひ多くの皆様に、南相馬市で研究が進められている最先端技術に触れていただきたいと思います。

次に、南相馬健康フェスタについてです。

8月21日に、南相馬健康フェスタをサンライフ南相馬で開催いたします。

このイベントは、3か月でマイナス3キログラムの減量を目指す「サンサンチャレンジ」の今年度のスタートに合わせて開催するものです。参加申込方法のサポートやスペシャルゲストのトークショーなど様々なプログラムを予定しています。

令和3年度の市民健康意識調査では、南相馬市の肥満者の割合が、全国の割合と性年代別で比較すると多くの区分で全国平均を上回る結果となっています。本イベントを通じて、これまで健康に関心が無かった方々にも健康の維持増進への意識を高めていただき、市を挙げて本市の健康課題であるメタボリックシンドロームの解消を目指してまいります。

私も「サンサンチャレンジ」に参加いたします。市民の皆様もイベントに足を運んでいただき、ぜひ私と一緒に「サンサンチャレンジ」に取り組んでいただきたいと思います。

私からの報告は以上です。部長からの報告のあと、皆さんからのご質問をお受けします。

【質疑応答】

質問1：

過日、原子力規制委員会は、東京電力福島第1原子力発電所の事故で発生する処理水を海洋放出する設備計画を認可しました。処理水の海洋放出は、南相馬市でも関心が高いと思われます。福島県に要望したいこと等ありましたら、教えてください。

回答1：市長

処理水の放出については、以前と基本的な考え方に変わりはありません。住民への説明、住民の理解が大原則と考えています。県も同じ姿勢であると理解しています。

質問2：

住民の理解が促進されて、同意が得られれば、処理水を海洋放出してよいという

理解でよろしいでしょうか。

回答2：市長

何をもって住民の同意とするかという問題もあります。処理水の海洋放出について、市民や県民、漁業関係者をはじめ、日本中の理解が不十分であると考えています。引き続き、理解を拡げる取り組みをお願いしたいと思います。

質問3：

令和4年度相馬野馬追の実績について、2019年と比較して観覧者数が減少している主な要因について、教えてください。

回答3：市長

沿道の観覧者数は例年と大きな変化はありませんでしたが、祭場地については、旅行会社によるツアーが減少したことが大きく影響していると思います。また、感染対策として観覧席毎に間隔を設けるため、席数を減らしたことも主な要因と考えています。栈敷席については、例年用意していたツアー客用の20人のマス席を設置せず、5人単位のマス席とするなど対応しました。

観覧者数は減少しましたが、多くの皆様にお越しいただいたことを嬉しく思っております。

以上